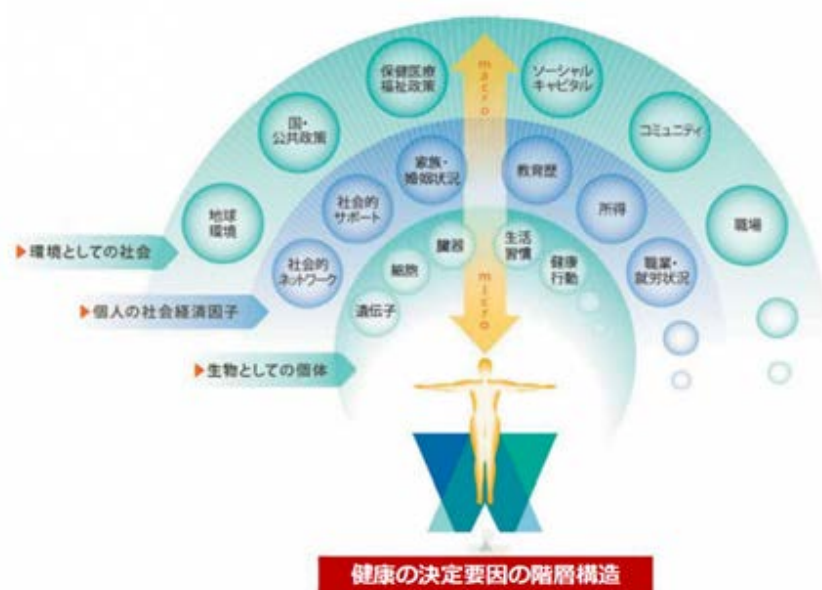


健康とくらしの調査 2019年 地域診断 概要 多可町

JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) は、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的としています。2019年度には、全国の64市町村と共同し、約37万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの30人を超える研究者が、多面的な分析を進めています。

本概要は、JAGESが実施した「健康とくらしの調査 2019」データを用い、介護予防や地域づくりに向けた地域診断の概要をまとめたものです。

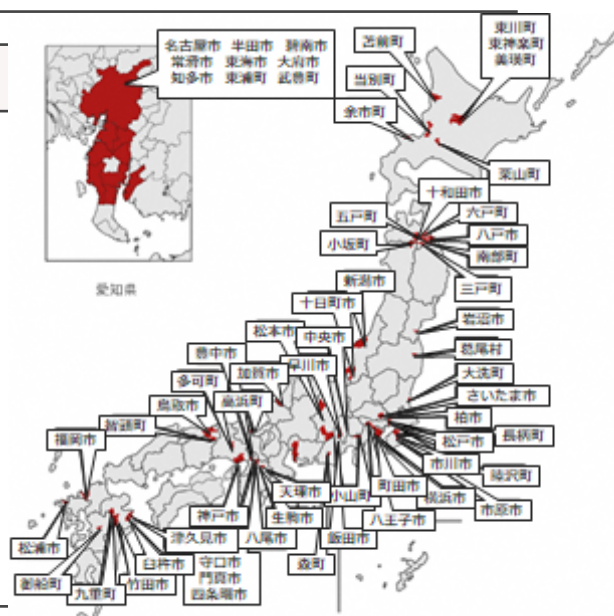


多可町 健康とくらしの調査概要

対象者	令和元年11月30日時点で65歳以上である高齢者
対象者数	3,000人
調査期間	令和2年1月6日～令和2年1月27日
回収数（率）	2,226票（74.2％）
集計数（率）	2,217票（73.9％）*年齢無回答や白票などを除いた
調査方法	サンプリング調査

全参加自治体 健康とくらしの調査概要

対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
参加数	64市町村（56保険者）
対象者数	368,982人
配布回収	郵送法、一部訪問調査
調査期間	令和元年11月25日～令和2年2月10日
回収数 （率）	254,396票（68.9%）
調査方法	全数調査またはサンプリング調査



特徴・強みと課題

目的

他の市町村と比べた、多可町の特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法

JAGES2019年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国64市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果

64市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

特徴・強み

■ 上位2割良い

■ 上位2-4割やや良い

No	指標名	今回	順位	色	回答者数	中央値	最小値	最大値
2	コア:要支援・要介護リスク得点の平均点	12.9	1	■	2,224	14.6	12.9	18.6
3	コア:フレイルあり割合	13.5	16	■	2,218	14.6	8.9	25.6
6	コア:認知症リスク者割合	9.6	6	■	2,212	11.4	8.4	23.1
15	コア:学習・教養サークル参加者割合	10.2	16	■	1,868	8.1	2.8	14.5
17	コア:友人知人と会う頻度が高い者の割合	79.7	3	■	2,149	71.3	61.2	80.2
18	コア:交流する友人がいる者の割合	38.5	3	■	2,148	31.0	20.0	40.5
19	コア:情緒的（心配事や愚痴）サポート受領者割合	96.1	6	■	2,158	94.9	92.4	96.9
20	コア:情緒的（心配事や愚痴）サポート提供者割合	94.4	10	■	2,134	93.3	89.9	95.4
22	コア:手段的（看病や世話）サポート提供者割合	81.1	5	■	2,076	77.9	72.3	82.5
24	コア:ソーシャル・キャピタル得点（連帯感）	167.3	15	■	2,172	158.0	135.8	181.1
25	コア:ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）	197.3	17	■	2,183	195.6	189.2	199.6

- コア健康指標11指標のうち、多可町が上位2割の特徴・強みと考えられるのは7指標（緑、No.2,6,17,18,19,20,22）でした。
- 健康指標の「要支援・要介護リスク得点の平均点」が12.9点と最も（リスクが）低く1位でした。「フレイルあり割合」「認知症リスク者割合」はそれぞれ16位、6位でした。
- 「学習・教養サークル参加者」「交流する友人がいる」「友人と会う頻度が高い」で割合が高いという特徴がありました。

課題

■ 下位2割悪い

■ 下位2-4割やや悪い

No	指標名	今回	順位	色	回答者数	中央値	最小値	最大値
1	コア:幸福感がある者の割合	47.1	38	■	2,087	47.6	38.0	54.4
5	コア:1年間の転倒あり割合	26.5	43	■	2,187	25.1	21.2	35.4
7	コア:物忘れが多い者の割合	46.7	60	■	2,162	40.2	35.1	50.6
10	コア:うつ割合（GDS5点以上）	25.9	40	■	2,158	24.4	18.2	34.5
12	コア:スポーツの会参加者割合	23.4	39	■	1,864	25.0	6.1	35.8
16	コア:特技や経験を他者に伝える活動参加者割合	5.4	37	■	1,876	5.7	2.0	9.4

- コア健康指標のうち、下位2割の課題と考えられるのは1指標（赤、No.7）でした。
- 健康指標の「もの忘れが多いものの割合」が46.7%であり60位でした。その他、「幸福感がある者の割合」「転倒あり割合」「うつ割合」が中央値よりも少ない割合でした。
- 「スポーツの会参加」「特技や経験を他者に伝える活動」割合が中央値よりも少ない割合でした。

まとめ

- 特徴・強みは、「要支援・要介護リスク得点」「フレイルあり割合」「認知症リスク者割合」が少ないこと、「学習教養サークル」「友人との交流」が多いことでした。
- 一方、課題は、「幸福感がある者」が少なく、「転倒あり割合」「物忘れ」「うつ割合」が多く、「スポーツの会」「特技や経験を他者に伝える活動」が少ない傾向であることが考えられます。

特徴・強みや課題と関連する要因

目的

どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

方法

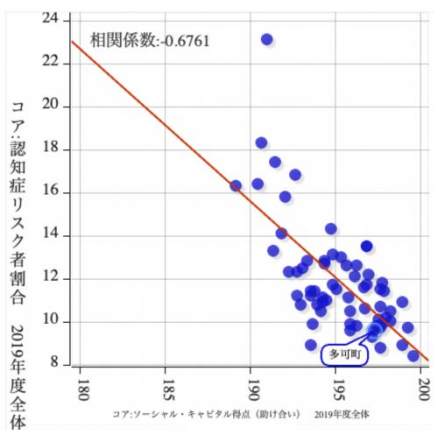
JAGES2019年度調査に参加した64市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

結果

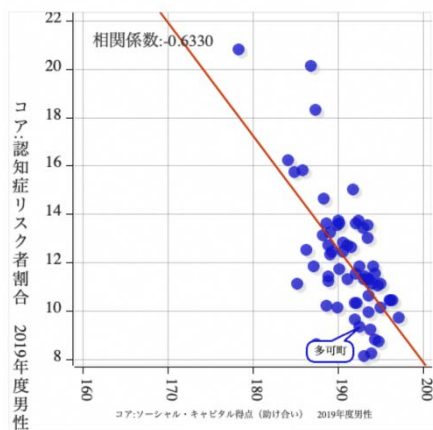
特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがありました。

1. ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）が高いまちは、認知症リスク者割合が少ない

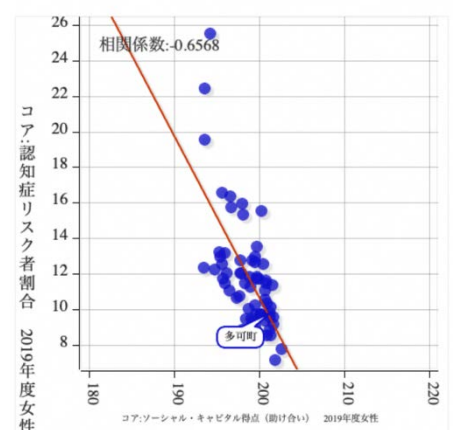
- ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）は1.あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人、2.あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人、3.あなたの看病や世話をしてくれる人、の3種類から作成する指標です。
- 多可町は助け合い得点が高得点であり特徴・強みです。同じく特徴・強みである認知症リスク者割合の低値を維持するために、引き続き社会の互助や絆を維持することが重要だと考えられます。



全体



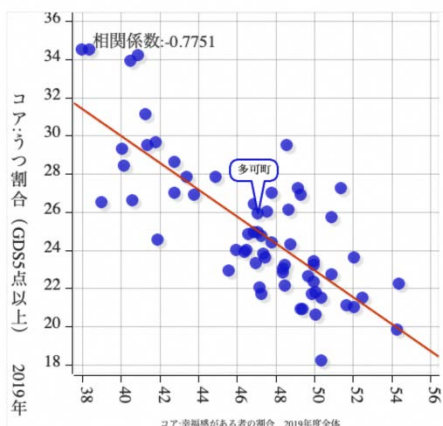
男性



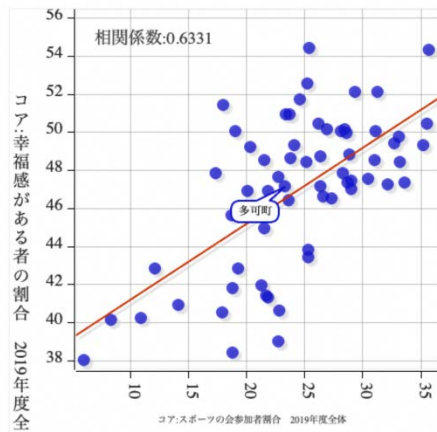
女性 64市町村

2. 幸福感がある者の割合はうつ割合や社会参加割合と関連する

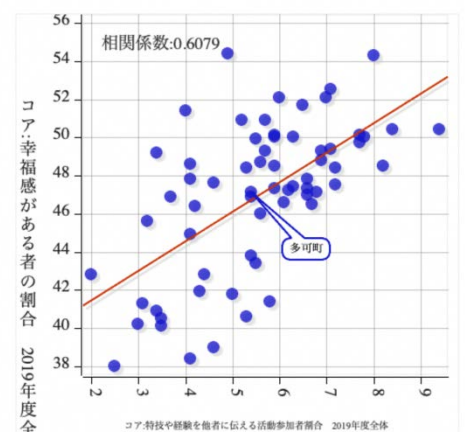
- 幸福感がある者の割合が多いまちは、うつ割合が低いことがわかりました（下図）。
- スポーツの会や特技や経験を他者に伝える活動の参加割合が多いまちは幸福感のある者の割合が高いことがわかりました（下図）。



うつ割合と幸福感



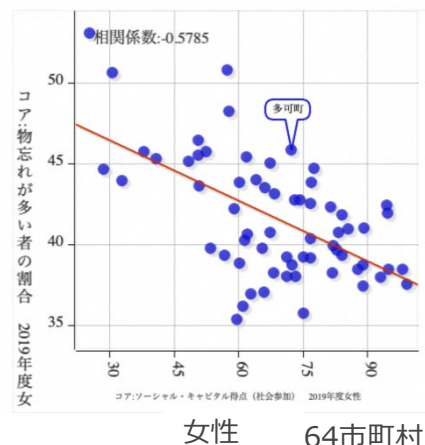
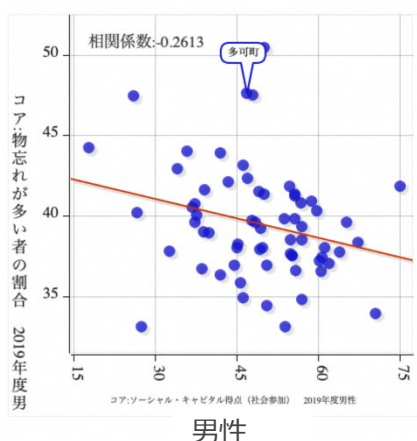
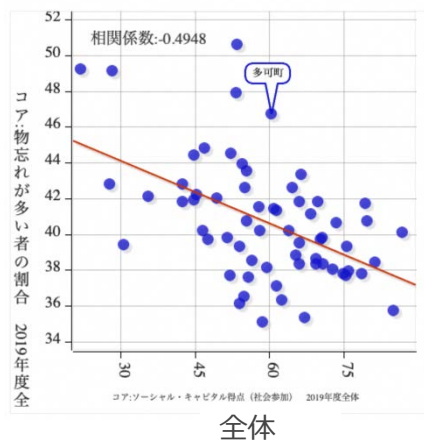
幸福感とスポーツの会参加



幸福感と特技や経験を他者に伝える活動
64市町村

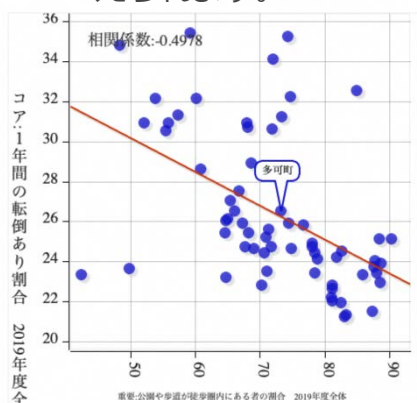
3. 物忘れが多い者の割合とソーシャル・キャピタル得点（社会参加）が相関する

- 物忘れが多い者割合は、全国64市町村で比べると、低位（60位）に留まっています。
- ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）は1.ボランティアの会、2.スポーツの会、3.趣味の会、4.学習・教養サークル、5.特技や経験を他者に伝える活動の参加頻度を組み合わせた指標です。多可町は30位であり中程度でした。
- これらは、性を考慮しても相関していました（下図）。多可町は社会参加のうち、学習・教養サークルの参加割合が高い反面、スポーツの会と特技や経験を他者に伝える活動の参加割合が低位に留まっているため、これらの参加者割合の増加が課題かもしれません。

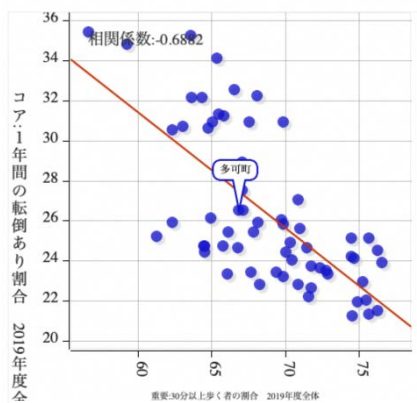


4. 一年間の転倒あり割合と近隣の公園や歩道

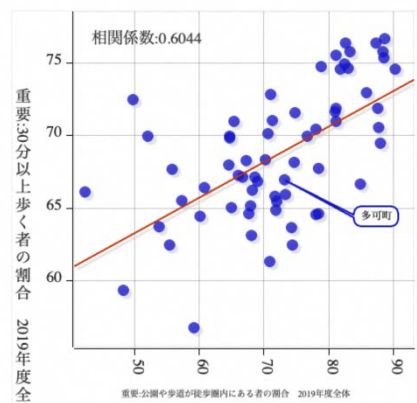
- 転倒あり割合は、多可町は26.5%が該当し、64市町村中43位でした。
- 重要指標である「30分以上歩く者の割合」は66.9%で40位、「公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合」は73.3%で31位でした。
- 転倒あり割合が高いまちは、30分以上歩く者の割合や近隣に公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合が少ないことがわかりました（下図）。
- ウォーキングマップの作成やイベント開催を通じて、徒歩圏内に公園や歩道があることを認識してもらうことなどで、30分以上歩く者を増やし、転倒あり割合の改善が期待できると考えられます。



転倒あり割合と公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合



転倒あり割合と30分以上歩く者の割合



30分以上歩く者割合と公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合

64市町村

まとめ

- 多可町の強みである認知症リスク者割合の少なさとソーシャル・キャピタル（助け合い）得点の高さが関連していると考えられました。引き続き高い水準の維持が望めます。
- 全国64市町村の中では、多可町は、幸福感がある者が少なく、転倒あり割合、物忘れ、うつ割合が多いという健康課題があり、やはり低位の指標であったスポーツの会、特技や経験を他者に伝える活動を含むソーシャル・キャピタル得点（社会参加）と相関を認めました。
- 社会参加の中では、学習・教養サークルの参加割合が高い反面、スポーツの会と特技や経験を他者に伝える活動の参加割合が低位に留まっているため、これらを増やすことで「幸福感がある者」が増え、「物忘れが多い者の割合」が減る可能性が示唆されました。

市町村内比較から探る重点支援対象地域

- 目的** 課題だと分かった指標について、多可町の小地域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点支援対象地域を明らかにすることを目的としました。
- 方法** 自治体内小地域別データを用いて、比較しました。
- 結果** 自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

1. 物忘れが多い者の割合の小地域比較

- 物忘れが多い者の割合は、全体で42.8（中町南）から49.0%（八千代）と6.2%の差が見られました。
- 男子でも女性でも、八千代、杉原谷、松井の3地域の物忘れが多い者の割合が高く、この3地域が重点支援対象地域と考えられます。

小地域名	全体		男性		女性	
	今回	順位	今回	順位	今回	順位
中町北	45.6	2	46.3	2	44.9	2
中町南	42.8	1	40.6	1	44.3	1
杉原谷	47.3	3	46.9	3	47.9	5
松井	48.8	4	51.5	4	46.6	4
八千代	49.0	5	52.7	5	45.5	3



2. 幸福感がある者の割合の小地域比較

- 幸福感がある者の割合は、全体で45.0（八千代）から49.6%（中町南）と4.6%の差が見られました。
- 性別で見ると、小地域の順位が一致せず、性差があることがわかりました。
- 重点支援対象地域は「松井の男性」でした。

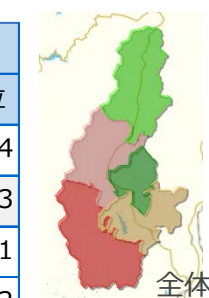
小地域名	全体		男性		女性	
	今回	順位	今回	順位	今回	順位
中町北	49.3	2	43.1	1	54.8	2
中町南	49.6	1	40.6	4	56.2	1
杉原谷	45.7	4	42.9	2	48.8	5
松井	46.4	3	38.3	5	53.5	3
八千代	45.0	5	40.7	3	49.2	4



3. うつ割合（GDS5点以上）の小地域比較

- うつ割合は、全体では23.0（中町北）から32.1%（八千代）まで9.1%の差がありました。
- 男性での最も割合が低い地域は「中町北」、女性での低い地域は「杉原谷」でした。
- 重点支援対象地域は、「八千代」でした。

小地域名	全体		男性		女性	
	今回	順位	今回	順位	今回	順位
中町北	23.0	1	21.8	1	24.0	4
中町南	25.5	3	29.7	3	22.6	3
杉原谷	23.5	2	25.3	2	21.6	1
松井	25.8	4	30.1	4	22.2	2
八千代	32.1	5	35.1	5	29.4	5



まとめ

- 「物忘れが多い者の割合」「幸福感がある者の割合」「うつ割合」という多可町の健康課題について、各地域における性による違いがあることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、物忘れでは「八千代」「杉原谷」「松井」、幸福感では「松井」の男性、うつ割合では「八千代」でした。

地図の凡例

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位

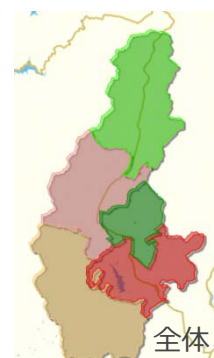
市町村内比較から探る改善の手がかり

- 目的** 多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小地域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。
- 方法** 市町村内小地域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。
- 結果** 市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

1. スポーツの会参加割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 男性と女性の参加割合はほぼ同じでした。最も参加割合が高い地域は男性で八千代、女性で中町北でした。
- 前期高齢者よりも後期高齢者の参加割合が高いことがわかりました。前期高齢者は就労している者が多いことに関連があると思われます（多可町の「就労していない者の割合」は3位）が、就労者が比較的多いにもかかわらず、スポーツの会の参加（前期高齢者）割合が高い「杉原谷」に改善の手がかりがあると思われます。

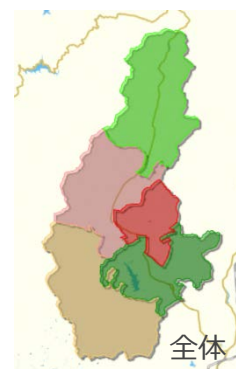
小地域名	全体		男性		女性		前期高齢者		後期高齢者	
	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位
中町北	24.6	1	21.7	4	27.3	1	15.6	4	45.2	1
中町南	21.3	5	21.9	3	20.9	4	13.8	5	31.8	2
杉原谷	24.4	2	23.1	2	26.0	2	23.5	1	26.4	5
松井	22.9	4	20.1	5	25.1	3	19.9	2	29.4	4
八千代	23.2	3	26.4	1	20.2	5	18.9	3	31.3	3



2. 趣味の会参加割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 趣味の会参加は、男性で少なく、女性で多いことがわかりました。男性において最も割合が少ないのは「中町北」、女性では「松井」でした。
- スポーツの会参加と同様に、趣味の会においても前期高齢者よりも後期高齢者で参加割合が高いことがわかりました。
- 重点対象地域は「中町北」「八千代」「松井」であり、改善の手がかりは「中町南」にあると考えられます。

小地域名	全体		男性		女性		前期高齢者		後期高齢者	
	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位
中町北	28.5	5	17.9	5	38.5	3	25.0	5	36.5	2
中町南	34.6	1	24.8	1	41.7	1	31.5	1	39.1	1
杉原谷	29.9	2	21.7	2	39.6	2	29.5	2	31.0	4
松井	28.7	4	19.1	4	36.8	5	25.7	4	35.3	3
八千代	29.4	3	20.8	3	37.3	4	28.8	3	30.6	5



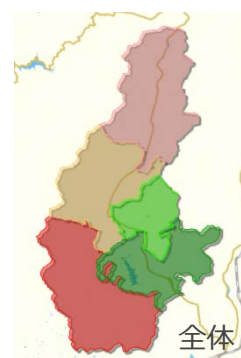
地図の凡例

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位

3. 特技や経験を他者に伝える活動の参加割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- ・ 男性よりも女性の方が参加割合が高いことがわかりました。男性において最も割合が少ないのは「八千代」、女性では「杉原谷」でした。
- ・ 前期高齢者よりも後期高齢者で参加割合が高いことがわかりました。前期高齢者において最も割合が少ないのは「八千代」、後期高齢者では「杉原谷」でした。
- ・ 重点対象地域は「八千代」「杉原谷」「松井」であり、改善の手がかりは「中町南」にあると考えられます。

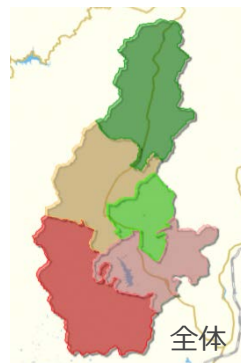
小地域名	全体		男性		女性		前期高齢者		後期高齢者	
	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位
中町北	5.9	2	3.8	4	7.9	1	4.2	4	9.6	1
中町南	6.6	1	4.6	3	7.9	1	5.2	1	8.4	2
杉原谷	4.7	4	4.7	2	4.8	5	5.0	2	4.1	5
松井	5.2	3	5.1	1	5.3	4	4.9	3	5.8	3
八千代	4.3	5	1.3	5	7.1	3	3.8	5	5.3	4



4. グループ活動への参加意向がある者は約6割

- ・ 「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は、64市町村間で比べると多可町は3位で、活動への参加意向者が多いことがわかりました。
- ・ 男性・女性ともに約6割の方が参加意向を示しており、「杉原谷」「松井」において意向割合が高いことがわかりました。
- ・ 後期高齢者よりも前期高齢者の方が意向割合が高く、「杉原谷」「松井」において参加意向者が多いことがわかりました。
- ・ 前期高齢者での社会参加の少なさは、就労が要因の1つと考えられますが、6割以上に参加意向があることがわかりました。就労している時間帯以外での社会参加開催（例えば、朝や夕方に実施）や短時間開催（例えば30分程度で終了する内容）などが考えられます。杉原谷の前期高齢者ではスポーツの会参加割合が比較的高かったため、そこに改善の手がかりがあると考えられます。

小地域名	全体		男性		女性		前期高齢者		後期高齢者	
	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位	今回	順位
中町北	62.4	2	65.8	2	59.2	4	65.4	3	56.2	3
中町南	58.6	4	52.2	5	63.2	3	59.0	5	58.0	2
杉原谷	65.9	1	68.0	1	63.5	2	68.5	1	59.8	1
松井	62.3	3	57.4	4	66.5	1	65.5	2	55.8	4
八千代	57.3	5	57.8	3	56.9	5	60.5	4	52.0	5



まとめ

- ・ 社会参加割合が高いまちで幸福感が高く、うつや転倒あり割合が少ないことから、健康指標の更なる向上のための手がかりは、参加割合が多い地域から得られると期待できます。
- ・ 全体を通して、比較的社会参加割合の高い地域は「中町南」であり、そこに改善の手がかりがあると考えられます。

多可町の地域診断 概要 2019

JAGES「健康とくらしの調査2019」に参加した64市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1 市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 特徴・強みは、「要支援・要介護リスク得点」「フレイルあり割合」「認知症リスク者割合」が少ないこと、「学習教養サークル」「友人との交流」が多いことでした。
- 一方、課題は、「幸福感がある者」が少なく、「転倒あり割合」「物忘れ」「うつ割合」が多く、「スポーツの会」「特技や経験を他者に伝える活動」が少ない傾向であることが考えられます。

2 特徴・強みや課題と関連する要因

- 多可町の強みである認知症リスク者割合の少なさとソーシャル・キャピタル（助け合い）得点の高さが関連していると考えられました。引き続き高い水準の維持が望まれます。
- 全国64市町村の中では、多可町は、幸福感がある者が少なく、転倒あり割合、物忘れ、うつ割合が多いという健康課題があり、やはり低位の指標であったスポーツの会、特技や経験を他者に伝える活動を含むソーシャル・キャピタル得点（社会参加）と相関を認めました。
- 社会参加の中では、学習・教養サークルの参加割合が高い反面、スポーツの会と特技や経験を他者に伝える活動の参加割合が低位に留まっているため、これらを増やすことで「幸福感がある者」が増え、「物忘れが多い者の割合」が減る可能性が示唆されました。

3 市町村内比較から探る重点対象地域

- 「物忘れが多い者の割合」「幸福感がある者の割合」「うつ割合」という多可町の健康課題について、各地域における性による違いがあることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、物忘れでは「八千代」「杉原谷」「松井」、幸福感では「松井」の男性、うつ割合では「八千代」でした。

4 市町村内比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- 社会参加割合が高いまちで幸福感が高く、うつや転倒あり割合が少ないことから、健康指標の更なる向上のための手がかりは、参加割合が多い地域から得られると期待できます。
- 全体を通して、比較的社会参加割合の高い地域は「中町南」であり、そこに改善の手がかりがあると考えられます。